



札幌 東高同窓会報

昭和51年 8月
第 3 号

すず(鈴)のこころ

同窓会顧問(職業九期)

芦野トシ

折々にきく、つり鐘のひびきは、大きくも小さくも、それぞれが韻々と胸に泌みわたるようで、ときには、もの悲しくさえある。

鐘に及びはないが、いつの頃からか鈴に想いをこめ、愛でいとおしむ私である。紅白の木綿糸で組んだメなわのようなのに、つり下っているハンガリー製の真鍮の五つの音は、かわりばんこにカアラン、カアランとなる。ポルトガルのは透ける三角帽子の中で瀬音のようにすがすがしい。イタリー製の精巧な小づくりのランプの両脇で、リンリンとはねるようなのは、さくらんぼ程の大きさ。三年ばかり前の東北での家政学会の折に、コソット時間をぬすんで、人形の里を訪れたとき、思いがけず見つけたのは、インド製の真鍮で吊鐘型、カラアーン、カラアーンと大きな響きは、昔の小学校を思い出させる。文団脇のチャリテイで買ったのは、アメリカのどこやらの州の独立記念のものとか。バンコクやの、東ドイツのにまじって、国籍は忘れたけれど、飾りの鹿がとても立派で精巧なつくりのもの、昔の近火のしらせの半鐘に似ていていやー。チロルの山がバックで、金色地のカバン型と、ステンド・グラスに本金で(の由)西欧風のエレガンスな模様、忘れな草のような花かざりが浮いているのは、共にことしのインスピレーションへ。さて、私の書棚、人形ケース、眼鏡入れ、ガマ口、ハンドバッグ、いろんな鍵にと、それはちょっと数えだてのならない程のもろもろの鈴族は私の生命(いのち)。私をふるい立たせて呉れるものもある。

アレ、窓への南部鉄の鈴がリリン、リリンと。鈴の音の涼しい頃は、又楽しい同窓会総会の季節でもある。私は間もなくギリシャへの旅に発つ。



緑に囲まれた現校舎玄関(中村写真館提供)

第六六回同窓会総会

当番幹事を終えて

とんろく会 斉藤 八郎

同窓会とは何か、その在り方は?……など、と肩肘はって当番幹事を引き受けたわけではありません。いや、むしろどうせ避けられないマワリ番の役目なら大過なく終わらせて。そうすれば当分は順番が来ないんだから——。そんな安直な気持ちからスタートしたとも言えるかもしれません。

しかし、準備の緒についた瞬間から、かつての先輩幹事諸氏が感じたであろうと同じ「戸惑いからの出発」となり、たまたま同期会の代表幹事があったこと不幸を悔むハメになりました。おっとすみません、たとえ一時的な自嘲のことはでも「幹事であること不幸」など口にするべきではありません。

五十年度の当番期は、高女一八期、東六期、それに東二五期(新卒期)の三期合同です。二月の第一回打合せから総会終了後の報告書作成まで、大小二十数回に及ぶ会合、三期併せて四十名に達する拡大幹事のご協力は、何にも増して有難いものでした。

年代からいっても、社会的立場からみても、私たち六期会が中心となって活躍するのは当然ですが、さすが働き盛りと感ずることが多く心強く思いました。でも、ここで幹事会の自画自賛をするつもりはありません。

同窓会役員をはじめ先輩後輩の方々の強力なバックアップに心から感謝いたしております。

さて、私たちが準備を始めるにあたって、当番期としての基本的な姿勢を確認し合い、何本かの柱をたてたのですが、特に次の二点を準備進行上の眼目としました。

(1) 集めた会費はことごとく参会者に還元する。

従来、会券の売り上げから招待者分や諸準備の経費を捻出するため、どうしても予算不足になりました。ですから今年には会費に終ってしまいました。ですから今年には会費をそっくり出席者に返えしたい。会券の売り上げ金はすべて総会当日につきこみたいと考えました。

そのため、広告や寄付でずいぶんと委員の皆様にご迷惑をおかけしました。有難うございました。お蔭で従来約五倍近い七十万円という準備金を用意することができました。

総会当日も、種々の企画を実施することができましたが、その効果、是非については、皆様のご批判を待つよりありません。

(2) あまねく東高同窓会活動を印象づける。

会券配布での苦勞については先輩幹事からもきかされていましたが、なるほどその実体についてみるとそれが想像以上であることがわかりました。

同窓会の存在価値はどこにあるのか、総会出席のメリットは一体何なのか——と聞き直られて返答の仕様に困ったこともありました。

現東高校の高山先生も前号に書かれているように、同窓会は「情緒的集団である」という意味を納得せずに成り立つものではありません。

何はともあれ、同窓会活動を会員だけでなく、一般の人々にも印象づけたと思つたのです。それで道新やタイムスに二段抜きの同窓会広告を出したり、社会福祉関係に寄付をしようとして四十万円の余剰金をつくつたりしました。しかし残念ながら同窓会財政はそれほど豊かではなく福祉寄付は実現しませんでした。改めて力不足を反省しています。

多少の紆余曲折はあったものの当番幹事を何とか終わらせてもらいました。当番幹事の立場からも、また一般参加の立場からも、同期会活動の充実が同窓会の母体とならなければならぬと痛感しました。

幸いなことに、同窓会も各同期会活動を推進しようとの動きがみえてきたことは何よりです。

いろいろな意味で、よい経験をさせていただきました。幹事一同、わずかながら満足感をもっています。そして、幹事の苦勞を身をもって味わっただけに、当番期が終わったとたん同窓会に出席しなくなるというようなことだけはなくしようと語り合ったことでした。



こぶし会の現況

高女二期 石田 アイ

昭和二十四年四月初め尾崎操さん宅にて三・四名集まり、又以前の様にクラス会を開きたいネ（戦中、戦後の数年を休んだ）と言う事になり、在札の皆さんに呼びかけたところ次々にQKの返事に、早速五月に第一回目を開く。総ぜい十五名尾崎操様宅にて、第四十代の入り口で子育て盛りの年令、戦中戦後の困難をくぐり抜けたのにさわやかな顔で元気一パイでした。これからお互い助け合い力になりあって行こうヨと言う事になって、今日迄二十八年間毎月同期会を開いています。

始めの内は各戸当番制で個人宅で開いていましたが、地方からの転勤により在札人員も増し各家庭持ち廻りも困難になり適当な場所も出来たので現在は場所は定着しました。その内旅行の話も出て積立を始め、年に一度か二度は必ず修学旅行と称し道内は言うに及ばず道外迄も足をのばし、まことに楽しい有意義な社会勉強もいたします。旅行の時は近郊在住の方々にも連絡し参加しますのでぎやかになります。

この会は今会長も副会長もなく、只運営上旅行積立等の関係から会計幹事と庶務幹事を各二名年毎二年間、そして定例会幹事を定めその他に本部との連絡に年幹事を三名（内常任幹事石田）を置き運営しています。従って本部からの連絡事項はその月に議題にのせ処理出来ます。現在迄三三六回の集まりになります。話題は学校時代のアレコレで毎度トンネルの様な口をあけて笑いこけ時間の経つのを忘れがちと言ったところですが、又或る時は時事問題から料理教室、育児の事等々でネタはつきません。

然しこの長い年月に四名の物故者がありました。残念ですが病氣と年令には勝てませんでした。ごめいふくを祈ります。会員が亡くなる毎にお互い元氣付け合いいつ迄もこのこぶし会を続けようと言っています。現在二十二名ですが私共東高校で育てられたことに感謝しております。尚両子二代に亘ってお世話になった者が何組あります。母校の発展と同窓会の結び合いを祈り上げます。

※ 写真は五十年十月十四日バス貸



切りで近郊探さく日帰り豊羽鉾山 札幌入り 途中紅葉の美しいハイキ
 小湯（ハイキングコース入り）朝
 里温泉 小樽 西野 福井 さん とい
 シグコースで撮った写真です。
 （宮崎さん撮影）



八東会発足まで

この度、卒業後初めて同期会を開くことができましたことを、先輩始め、お世話くださいました皆様へ、厚く御礼申し上げます。同期会は、誰かが開いてくれるものと勝手に決めこんでいた者ばかりが、同期会を計画しお世話するはめになってしまったのです。

この秋に発行が予定されております同窓会名簿の、東高八期分の名簿作りが目的で、二・三人で作業を始めました。卒業後何度か、名簿が発行されておりますが、何分、我々の生活が年令的にも、社会的にも、移動の激しい時期だったもので、苦労することしばしばでした。連絡のとれる友達に、できるだけ電話もし、住所不明者の消息を得て、また途中に十数名の協力者を得て、八〇%以上の消息を把握することができました。残りの不明者をより少くするには、同期会を開くより他にないとの結論が出たのです。

昭和五十一年二月二一日、大手門での同期会になりました。御多用の処、また雪の降る寒い中、神先生を始め、七名の先生のご出席を戴きました。八戸より林君、函館、旭川、釧路と、遠方よりも参加され、一〇〇名を越す盛会になりました。日頃の多

忙を忘れ、高校時代の気持を思い出された感があり、懐しさだけでも楽しい会になりました。

会の途中で、この会の名称をとの提案が出され、東高八期同期会に因み「八東会」と会名が付けられました。また毎年開催されることも提案され、皆様の賛同を得ました。

今まで、東高同窓会の中で、同期会をもったことのない期の最右翼とされて来ましたが、東高八期ですが、「八東会」の発足で汚名を返上し、諸先輩の仲間入りすることになりました。なお、東京近辺におられます同期生に働きかけ、「八東会」の東京会も近く開かれる予定にまで発展しております。

在学中はともあれ、同じ教室で学び、同じ門をくぐった仲間として、折につけ親睦を深め、母校の発展と、同窓会、八東会の発展を望み、再会を誓い、散会となりました。

世話人一同、初めてのことで、不慣れな点が数々あり、不手際もあつたことと思われまします。しかし、出席された皆さんに「良かった」と、おほめをいただき、ご満足いただけたことと安堵した次第です。先ずは「八東会」発足のご報告申し上げます。

(文責・遠藤、安倫)

関西支部の報告

高女一四期

黒崎喜代



平素は同窓会の為に種々御配慮頂きまして誠に有難うございます。

昨日同窓会関西支部の連絡係、神戸在住の和田彦子様から関西支部の最近の様子を札幌へ報告してほしいとのお電話を頂きましたので、丁度五月十六日(日)に第十七回同窓会を当地で開きましたところでしたので一応私から御報告させて頂きます。

前川先生を支部長として発足致しましてから早や十七年目になりました。毎年五月か十月に和やかな会合を持ちまして一年に一度京都、奈良、大阪、神戸と廻り持ちで仲良く楽しい集いを続けております。会員は只今のところ名簿上では九十名程でございますが大体のお集りは二十五名から三十名位でございます。

今回の奈良の会合は出席者二十五名で、前川先生が支部長、和田彦子様(本科一回)が札幌からの連絡係、東香枝様(本科十回)が会計係として毎年交替で当番を定めてお世話をしております。

今年には奈良が当番に当りましたので私共がお世話致しました。昨年は大阪でしたが来年は神戸の方達が世話くださいます。

以上でございます。同じ学校で学びました親しみが年令を感じさせない集りで本当にいつもお会いして嬉しく、なつかしく感じて名残惜しくお別れ致しております。又来年を楽しみに……

札幌をいつもなつかしく想い出し乍らペンをおきます。今後共よろしくお願ひ申し上げます。

写真説明

(前列左より)

本13 渡辺 節子
本1 和田 彦子

広瀬 先生
前川 先生
地主 先生

家2 野口 寿子
家2 山本みよ子
本2 小野 のり
本4 三浦いくよ

(中列左より)

本26 井上 敏子
本16 斉藤 英子
本8 高原 秋

本12 松谷恵美子
本11 瀬川 信子
本8 加藤 澄子
本4 東 ふみ子
本4 瀬尾 静

本13 奥山 滋子
本13 八巻 美留
(後列左より)

本16 井上 雅代
本14 金井 静子
本14 黒崎 喜代
本19 筒井 英子
本18 藤田喜久子
本22 地主みち子

前列の渡辺様と三浦様は、札幌からの御参加です。

弔

尾 沢 豊

先生

六月初旬に、低血圧の治療で斗南病院に入院中でしたが、八月十日脳溢血で逝去されました。享年六十八歳でした。葬儀は豊平の東本願寺豊白支院でしめやかにとり行なわれるしたが、東高卒業生有志の供花もあり、先生の人徳をしのばせました。

先生は石狩町のお生れで、北学道師範(現教育大札幌)を卒業、市内の小学校に奉職され、その後満州に転ぜられ、更に日大を卒業されました。昭和二十四年に札幌東高に着任され、定年まで国語と図書局のご指導に専念されました。高女時代にも一時在職されたともうかがっております。近年は桑園予備校にお勤めでしたが、あの特徴のある口調が耳に残っております。ご冥福をお祈りいたします。





みみずのたわごと

元 東高教諭

美の浦 三郎

(道都(旧産業)大 学 講 師)
オレゴン州ポートランド名譽市民

あの終戦の日僕はマレーのペナン島にいた。職業軍人以外大多数の人々が赤紙(ハガキ一銭五厘、封書三銭)で召集され南北の戦地に狩り出されたのに僕は女房の反対を振り切って志願して陸軍の司政官と成り、当時ペナン州師範学校の学長であったガイキナリ南馬来軍(兵力二四万)首席通訳官に任ぜられ、赤道直下のレムパンに島流しにされ色々変わった

体験の後、二二年六月産れ故郷東京に引揚げたが知合のケリー準将の紹介で早速その九日付の朝日新聞第一面天声人語英訳という臨時採用試験を受け、即日マッカーサー総司令部CIE部(NHKビル)翻訳官に任ぜられ、当北海道日高の鶴川にソウルから疎開中の女房を連れに来たが当人及び姉夫婦に留められ占領軍ホツカイド軍政本部(グランドホテル前朝日生命ビル)CIE課顧問に転ぜられ、余り愉快ではない進駐軍雇員と成った。

その仕事の三年目何とマッカーサー総司令部からの厳命が出た。即ち「全国公立高校は男女共学に編成替えせよ」との事。個人としても大反対だったのにそれが却って幸運と成りここに現在のパークホテルの場所、即ち中島公園前の旧市立高女が一中、二中から男子生を迎へ学級増をせねばならなく成り、安倍登貴女史、鈴木竜夫君以下四名しかいなかった英語科スタッフに仲間入りさせていただいた次第。数学科は一中から久末誠一君を迎へて強化された事は皆サン御存知。

サテ公立高校職員は六〇才で一応停年退職勧告を道教委から受ける次第。僕の場合その話し始めるや否やサッサと退職。かねて通訳案内業国家試験に合格(免許状北海道第一号)(通訳協会会長)であったし実績も多かったので日本交通公社本社外事部に推薦されガイドとなって東京を中心に外人観光案内を實際に経験

していたが僅か二ヶ月で北星学園時任園長から呼び戻されその女子高に教鞭を採るに至り、産大創立と同時にその教授と成りこれ亦停年で現在は講師として相不変若い男女学生諸君に講義をし乍ら今日に到った。

サテ同窓会嫌いの人々が世の中には沢山いるが諸君はよくぞ今日もこうして沢山集って下さって嬉しい限り、僕も旧万朋会(東高旧職員同窓会)員として必ず駆けつける事にして居る。東高在職時代の事は前田白老高校長が前号に書かれたから僕は別の面から書こう。一番印象に残っているのは中島校舎から現上白石新校舎に引越したあの時の事である。当時庶務の責任者だったので綿密な計画を立て運び出す学級(担任・学生)と受取る学級に区分し膨大な校具・用具・植樹木等々をトラックに馬車に積み込み「立つ鳥跡を汚さず」という信念の下に旧校舎の清掃に、新校舎の整備に皆サンに協力していただいた事だった。

次に一期(三年目丈)二期・五期と通算八ヶ年の学級担任時代が一番なつかしい。常に「相手の身に考へよう」という主義で歩いて来た。殊に数回の修学旅行に就いての色々な想い出は尽きぬものがある。何卒皆サン文字通り同窓会というものを愛し REUNION の実を挙げ心互に相睦び昔にかへり社会の中堅として更に東高精神を発揮し邁進される事を。

お願い
お知らせ

会員名簿のこと

五一年中の発行を目ざして編集集中です。原稿校正と割付が交錯しながら進められていますが、原稿記入の不備と調査の不足が目立ちます。刊行に要する経費との関連から、

広告と寄付を募っております。広告は、一頁四万円、一口一万円から。八月末までに目標達成の計画で、各期の幹事に努力いただいております。

広告・寄付など出版経費関係の責任者は岩城副幹事長、編集関係の責任者は佐伯副幹事長が担当しています。ご支援ご協力をお願いします。

年会費のこと

四九年度から、年会費として毎年五〇〇円を徴収しております。以前は、新会員(新卒業生)の入会費をもって事業運営を行なってきましたが、同窓会活動の充実を求める一環として、財政問題の解決が必要であり、年会費制度が総会で決定されました。郵便振替口座 小樽二二五二八番、又は拓銀本店・同札幌東支店に口座を設けてありますので会費納入にご利用ください。

同期会助成のこと

初めての同期会を開催すべく準備している間に、連絡通信費程度の助成をしております。ご利用ください。

昭和五〇年度会務報告

幹事長 藤田昭治

8・30 東高の前身である札幌女子職員学校が設立されて、来年には七〇周年を迎えようとしております。卒業生も二万二千余名に達し、尚一層の会員の親睦と母校の発展に寄与するよう望まれるところで、

五〇年度は、同窓会の意義の理解と、在校生との親交を深めるため、初めて「学校祭」に参加し、さらに創立七〇周年記念事業の一環として、会員名簿の作成に着手するなど、有意義な事業の推進につとめてまいりました。また、事業も多岐にわたるため、役員の強化を図るべく副会長三名（合計五名）、副幹事長四名（合計七名）を増員することが幹事会で検討され、新役員がそれぞれ選任されました。

我が同窓会が輝かしい七〇年の歴史と伝統を基に、ますます発展するよう会員各位の倍旧のご協力をお願いする次第です。なお、来年は、東高後援会・PTAなどと協賛して「創立七〇周年記念事業」を実施することになっておりますので、同窓生各位の特段のご支援をお願いいたします。

昭和五〇年度の主な会議と行事

(50・8・1～51・7・31)

- 8・25 札幌パークホテルで第六六回総会を開催、会員六一一名出席。
- 6・29 恵愛ビルにて幹事会。出席者は五〇名

議題は次のとおり。
 ①副会長・副幹事長増員に伴う会則の一部変更について
 ②東高創立七〇周年記念事業の協賛について

昭和五〇年度収入支出決算

◆同窓会一般会計

収入 一、五五二、六七〇円
 支出 九五六、六七五円
 差引残金 五九五、九九五円

内訳

●収入の部
 1、新入会員会費 二二八、五〇〇円
 2、年会費 三五五、〇〇〇円
 3、第六六回総会費 四三〇、〇〇〇円
 4、前期繰越金 五二四、四三八円
 5、雑収入 一四、七三三円

計 一、五五二、六七〇円

●支出の部

1、事務手当 六〇、〇〇〇円
 2、事務用品費 一〇、八五〇円
 3、印刷費 一一八、三五〇円
 4、通信交通費 一八、一三五円
 5、慶弔費 一九、〇二〇円
 6、会議費 五四、五七〇円
 7、総会関係費 二〇〇、〇〇〇円

8、学校祭関係費 八二、七二〇円
 9、同期会助成費 八〇、〇〇〇円
 10、新入会員関係費 一〇六、二〇〇円
 11、名簿発行関係費 一六七、五七〇円
 12、雑費 三九、二六〇円

計 九五六、六七五円

◆特別会計積立金

前期繰越金 三、二〇四、七二九円
 収益配当加金 二四五、六八六円

計 三、四五〇、四一五円

◆新役員が決定

先の幹事会で、副会長・副幹事長の増員が決定され、それぞれ選任・承認されました。これからの活動は、左記の役員の方々にご尽力を願うこととなります。

会長 松尾 静江（高女22期）
 副会長 小野寺チヅ（高女16期）新
 秋山 寿美（高女18期）新
 松尾 トモ（高女20期）
 五十嵐恒夫（東高1期）
 塩川 信（東高2期）新
 幹事長 藤田 昭治（東高1期）
 副幹事長 伊坂 郁子（高女23期）新
 柴田 陽子（高女23期）新
 山中 一夫（東高3期）新
 佐伯 昌夫（東高6期）
 大黒 正芳（東高8期）新
 岩城 弘侑（東高11期）
 奥田 武司（東高12期）新